

授業科目 教育課程論

【担当教員名】 足立 淳	対象学年	3	対象学科	健康・スポ・看護
	開講時期	前期	必修選択	選択
	単位数	2	時間数	30
【カリキュラムポリシーとの関連性】				
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	◎		◎
【概要・一般目標：G10】 この授業は、受講者に、教育課程に関する基礎的な教育学的教養を身につけさせること、さらに、現実の様々な教育問題に関して、上記の教養に根ざした自らの意見を主体的に形成できる力量を身につけさせること、の二つを目的としている。				
【学習目標・行動目標：SBO】 この授業は、上記の目的のために、以下の四つの目標の達成を図る。 （１）教育課程概念に関する基礎的な教育学的教養を形成すること。 （２）教育課程の適切な運用に関して、具体的事例に即して考察することのできる力量を形成すること。 （３）教育課程をめぐる現実の様々な教育問題について、他者との議論を通じて、自らの見解を深めていくことのできる力量を形成すること。 （４）教職に関わる者にとってふさわしい人間性とは何か、受講者一人ひとりが主体的に考えるための機会を提供すること。				
回数	授業計画・学習の主題		SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	教育課程論の位置と概要			講義・発表
2	教育課程概念の内実			講義
3	教育課程を貫く原理（１）—こどもの権利条約—			講義
4	教育課程を貫く原理（２）—大日本帝国憲法—教育勅語体制—			講義
5	教育課程を貫く原理（３）—日本国憲法—教育基本法体制—			講義
6	戦後の『学習指導要領』の変遷（１）—1940—60年代—			講義
7	戦後の『学習指導要領』の変遷（２）—1970年代以降—			講義
8	最近の『学習指導要領』の改定とその論点			講義
9	教育計画を構成する要件			講義
10	学習指導案について			講義
11	学習指導案の作成（１）—教材の選択と研究—			講義・作業
12	学習指導案の作成（２）—教授過程と学習過程—			講義・作業
13	教育課程の評価と改善			講義
14	教育課程をめぐる新たな諸問題			講義
15	全体のまとめ			
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所> <発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)				
参考書				
その他の資料				
【評価方法】 出席状況、課題への取り組み、試験成績などによって総合的に評価する。		【履修上の留意点】 履修にあたっては、近現代史に関する基礎的な知識が身につけていることが望ましい。		